

国外におけるサイクルトレイン・サイクルバスの動向

(株)ドーコン 東京支店 小美野智紀

日本では、今年5月に「サイクルトレイン・サイクルバス導入の手引き」が国土交通省・自転車活用推進本部連名で発出されました。COVID19による影響もあり、鉄道会社などが増収策を展開する過程で、サイクルツーリズムなどの連携が進み、これまで難しいとされていたJRや大手民鉄でも広がりが見られています。一方、先進とされている海外では・・・いろいろ状況が変化しているようです。

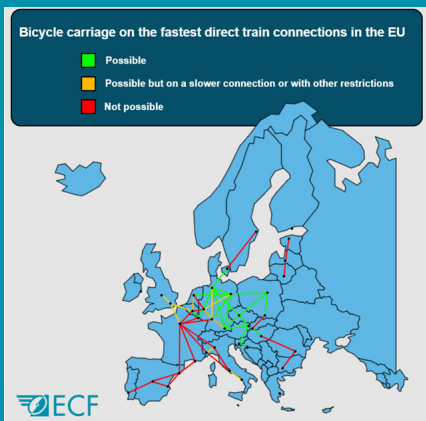
EU地域では、鉄道旅客輸送に関するEU規則「Rail Passengers' Rights and Obligations Regulation (EC) No 1371/2007」の第5条において、「鉄道事業者は～適切な場合には有料で乗客が自転車を列車に持ち込むことを許可しなければならない。」となっており、持ち込めることが原則となっています。

最近の変化として・・・

しかし、ECF (European Cyclists' Federation) では、それでは不足があるとして、1列車8台までの積載をもとめ、「CYCLISTS♥TRAINS」とするキャンペーンを展開。



さらに高速鉄道や特急列車への持ち込みも働きかけ
→鉄道事業者も対応をしている



ドイツの高速鉄道 ICE やフランス TGV でも自転車持ち込み可能に



Point

ちょっとマニアックな変化・・・

以前は自転車固定のラックが見られましたが・・・最近はまだ置くだけに変化している？ベビーカーや車いすとの共存も当たり前（ただし優先順位は低い）、跳ね上げ座席も増えている

まだ試行錯誤しているが、固定はがっちりしない方向にはなりつつあるようで・・・
(立てて固定は普及が急速に進む E-Bike では無理?)

Point

■ドイツ鉄道 (DB) の快速・普通列車 (RE・RB) 用の車両

旧型の車両



最近の車両



■ベルリンSバーン

跳ね上げ座席を活用



ヨーロッパだけではなくアジアでも・・・

台湾では台湾鉄道 (台鐵=日本のJRに相当) や地下鉄でも条件付き搭載可能。台鉄東部幹線 (東海岸) 宜蘭線・北迴線の一部区間は、台湾一周サイクルルート「環島」の一部を形成 (危険区間回避のため)。

さらに都市部での利用も多くみられるなどツーリズムから日常や気軽なサイクリングにもつながっている・・・かも。



路線バスやトラムでも

路線バスやトラムでも自転車を乗せられることがアピールポイントに



ストラスブール (フランス)



ライプツィヒ (ドイツ)

Point

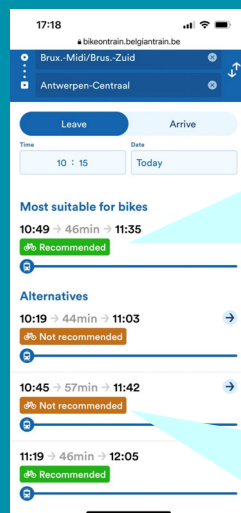
朝ラッシュ時は乗せられないのですが・・・パンクした自転車等はOK! 合理的♪



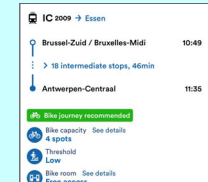
ストラスブール (フランス)

経路検索でも

自転車持ち込みにおすすめの列車もわかる経路検索サービスを鉄道会社が提供

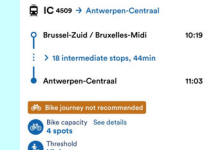


おすすめの列車



ステップがない

おすすめしない列車



ステップがある

Point

バスや公共交通のオープンデータ世界共通フォーマット「GTFS」には「自転車搭載可否」のチェック項目があります!
(日本向けの GTFS-JP にも項目があります。)

結論と今後への期待

先進例とされる欧州でも台湾でも、あるいは韓国や北米などでもサイクルトレインは一般的だが試行錯誤をしながらであるし、「これをやっておけばいい」というものはない自転車だけではなく公共交通の施策として、両社一体で取組むべき要素ではないでしょうか?